

| | | | |
|-----|---------------------|-------|-------|
| 科目名 | 地学 Earth Science | 科目コード | 20386 |
|-----|---------------------|-------|-------|

| | |
|----------|-------------------------------|
| 学科名・学年 | 全学科・4年（プログラム1年） |
| 担当教員 | 渡邊文雄・片桐憲一 |
| 区分・単位数 | 履修単位科目・選択・1単位 |
| 開講時期・時間数 | 後期，30時間【内訳：講義30，演習0，実験0，その他0】 |
| 教科書 | 高等学校 地学基礎（第一学習社） |
| 補助教材 | プリント，OHP，ビデオ，インターネット他 |
| 参考書 | |

【A. 科目の概要と関連性】

我々の生存する地球は、水と大気や豊かな自然を育てている一方、2004年の中越地震、2011年の東日本大震災など地震列島ならではの大地震や大津波などの災害をもたらしている。

また地学は地球温暖化など地球に関わる諸現象や、宇宙の過去と未来にも関係した極めて広い分野にわたる学問である。

授業はこの地学を単に知識として教えるのではなく、相互に関連づけながら「どのようにして宇宙や地球が誕生したのか？」「どうして地震が起きるのか？」など、自ら疑問を持って取り組む姿勢を持つように、そして学習の成果を実生活に生かすことを目指す。実際には、地球上のさまざまな地学現象を学習・理解するとともに、その応用として防災問題や環境問題に関わる地質現象を、地球の歴史的視点からの理解を目指す。

授業ではできるだけ具体的に、最新の情報・社会的話題及びいろいろな災害例や環境問題を取り上げる。事例を通して、我々は地質現象をどのように理解し、いかに対処してきたかを学び、そしてどのように対処すべきかを考える基礎を修得する。このほか、地形・地質に関する簡単な実習により、学習成果を実生活に生かすことができる知識・技術を体得する。

○関連する科目：化学（1・2年次履修），物理（2・3年次履修），生物（1年次履修）

【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(A)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

| 科目の到達目標 | 評価の重み | 学習・教育到達目標との関連 |
|---|-------|---------------|
| ① 宇宙における地球の位置づけを理解し、限りある貴重な資源である地球環境を保全する必要性を理解する。 | 30% | (a2),(a3) |
| ② 我々の日々の暮らしに密接に関連する様々な地学現象の概要を理解し、安全・安心・快適な生活基盤づくりや地盤災害など防災対策の知識と意義を理解する。 | 60% | (a2),(a3) |
| ③ 地質学の基礎である地形図の読み方、地質図の利用の仕方を修得する。 | 10% | (c2) |

【C. 履修上の注意】

特別な準備は不要。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格とする。

- 定期試験（85%）【内訳：中間 0，期末 85】
- その他の試験（0%）
- レポート（0%）
- その他（15%）

【E. 授業計画・内容】

● 後期

| 回 | 内 容 | 備 考 |
|----|----------------|---------------|
| 1 | 宇宙の構成 | 第1章 第1節 |
| 2 | 太陽 | 〃 第2節 |
| 3 | 太陽系の中の地球(1) | 〃 第3節 |
| 4 | 太陽系の中の地球(2) | 〃 〃 |
| 5 | 地球の姿 | 第2章 第1節 |
| 6 | 火山活動と地震(1) | 〃 第2節 |
| 7 | 火山活動と地震(2) | 〃 〃 |
| 8 | 地層や岩石と地質構造 | 第3章 第1節 |
| 9 | 地球環境と生物界の変遷(1) | 〃 第2節 |
| 10 | 地球環境と生物界の変遷(2) | 〃 〃 |
| 11 | 地球の熱収支 | 第4章 第1節 |
| 12 | 大気と海洋の運動 | 〃 第2節 |
| 13 | 地球環境の科学 | 第5章 第1節 |
| 14 | 日本の自然環境 | 〃 第2節 |
| 一 | 後期末試験 | 試験時間：50分 |
| 15 | 試験の解説と発展授業 | これまでの講義をふり返って |